

2008年3月期 第3四半期決算発表 アナリスト向け説明会質疑応答

平成20年2月4日
富士重工業株式会社

Q：10～12月期3ヶ月間の売上構成がプラスに転じている要因を教えてください。

A：売上構成は前年同期比で36億円のプラスとなり、その要因は以下の3点になります。
(1)国内自動車販売ではインプレッサ STI の投入で構成が改善してきたものの、販売台数の減少によりマイナス8億円。
(2)海外自動車販売では販売台数は伸びているものの、新車導入が本格化していないことから構成の悪化が続き9億円のマイナス。
(3)在庫調整によりプラス53億円。

Q：SOA、SIAは12月決算で既に終了しているが、発表された数字は最終と見てもよいか教えてください。

A：会計監査はこれからですが、ほぼ同様の数字になると考えています。

Q：SOA、SIAの2008年の計画を教えてください。

A：現段階では明確なことはいえませんが、SOAでは小売200千台を目指していきます。SIAについては原価低減に努めるとともに、トヨタカマリの受託生産がフル操業に近い状態となることから、利益寄与があるのではと考えています。

Q：矢島工場の生産能力について教えてください。

A：現段階では28千台/月ですが、5月に31千台/月、8月に33千台/月まで引き上げていく予定です。また、エンジンやトランスミッションを生産する大泉工場についても、状況に応じて臨機応変に対応していきます。

Q：コスト低減について来期はどのように考えているのか教えてください。

A：開発コストについては前のモデルよりも10万円のコスト低減に取り組んでおり、この効果は売上構成がよくなるという効果につながります。一方で、原価低減については新型車の立ち上がり時は減るという計算をしますので、来期は減少するのではと考えています。

Q：10～12月期3ヶ月の為替レートとヘッジレートについて教えてください。

A：USドル=114円、カナダドル=115円、ユーロ=163円でした。(06年度はUSドル=118円、カナダドル=104円、ユーロ=151円) 為替予約は向こう1年間の約25%を取得しており、今年度分はほぼ取得完了しています。

Q：為替感応度について、従来から変わったか教えてください。

A：USドル=約20億円、カナダドル=約2億円、ユーロ=約1.5億円になり、従来と変わりません。

Q：北米において昨年実施したMSRPの引き下げが収益に与えた影響を教えてください。

A：売上構成が約50億円のマイナスとなりましたが、インセンティブ引き下げにより約40億円のプラス、フリートロスの減で約10億円のプラスとなり、ネットで若干のプラスとなりました。

Q：3カンパニーの業績予想について教えてください。

A：中間期の年間見通しから変更はありません。航空宇宙カンパニーで41億円、産業機器カンパニーで11億円の営業利益を計画しています。

Q：SOAのインセンティブについて教えてください。

A：07年の実績は、06年に比べ200USドル減の1600USドルでした。08年については、07年実績を下回るよう計画中です。

以上